

看護専門科目	共通基盤看護学					
看護学科	必修	2単位	演習	平成30年度	前期	2年次
科目名	共通基盤看護学実践論Ⅰ（健康回復過程を支える看護） Adult Health NursingⅠ（Restriction and Rehabilitation）					
担当教員	◎林みよ子 岩本淳子 松井利江 山中政子 森知美					
目的	健康上の問題を持った対象を理解し健康回復を支援するための看護を実施するために必要な基礎的な知識と方法を理解する。					
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の考え方とその方法を説明できる。 2. ゴードン機能別健康パターンのそれぞれのアセスメント視点を説明できる 3. 紙上事例患者の健康問題に対する身体的・心理社会的側面をゴードン11パターンの視点でアセスメントできる。 4. 紙上事例患者のゴードン11パターン各アセスメントを統合してその対象の全体像を記述できる。 5. 紙上事例患者の全体像と疾病経過を踏まえて看護師の介入を要する看護問題を判断し看護診断ラベルを特定できる。 6. 紙上事例患者の看護問題を解決するための看護計画を立案できる。 					
他科目との関連	主に、共通基盤看護概論Ⅰ・Ⅱ、実践基礎論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、実践基礎看護学実習、体のしくみと疾病の成り立ちⅠ・Ⅱ・Ⅲで学習したことに基づいて学習され、後期に実施される共通基盤看護学実習Ⅰ・Ⅱの基礎となる科目である。					
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	筆記試験	定期試験				0.7
	記録等	紙上事例展開記録				0.3
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					
教科書	(序盤) 1年次に使用した「基礎看護技術1・基礎看護学②」（医学書院） (中盤以降) 「NANDA-I看護診断定義と分類」最新版（医学書院） 「看護診断のためのよくわかる中範囲理論」第2版（学研） ＊共に、共通基盤看護学実践論Ⅱ・Ⅲでも使用する					
参考資料	授業で提示する					
備考 (受講上注意、事前学習等)	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の科目（体のしくみと疾病の成り立ち、共通基盤看護学概論Ⅰ・Ⅱ、実践基礎論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）を復習して講義に臨むこと。 ・関連する内容の授業の時には、これらの科目で使用した資料や書籍を持参すること。 ・本科目の内容は「共通基盤看護学実習ⅠおよびⅡ」に直結する。実習の事前学習としてしっかり取り組むこと。 ・講義内容等で理解できないことは質問して自己学習が効果的に進められるように取り組んでください。 					